

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 38 号 平成 21 年 1 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

ホルモン抵抗性再燃前立腺癌に対する新規治療薬について

泌尿器科部長 松原 廣幸



従来、手術適応のない前立腺癌に対しては、ホルモン療法を行うことが一般的でしたが、次第にホルモン抵抗性となり、再燃前立腺癌になることがあるため、ホルモン療法に代わる化学療法の開発が進められてきました。

ドセタキセル(商品名タキソテール注)はタキサン系の抗癌剤であり、チューブリンの重合を促進し、安定な微小管を形成し、その脱重合を抑制することで、抗腫瘍効果を発揮します。従来、消化器癌、婦人科癌、肺癌のみの適応でしたが、国内での臨床試験を行ったのち、今年8月術後再発やホルモン療法無効例に対する前立腺癌への適応が国内で承認されました。

添付文書によると、本邦の phase II 臨床試験では PSA 低下(50%以上)の奏功率は 44.4%(19/43 例)、海外での phase III 臨床試験では生存期間中央値は 18.9 ヶ月でした。

使用時には、ステロイド併用もしくは以前から前立腺癌の治療に使われているエストラムスチンを併用します。投与スケジュールは、初回のみ入院とし、副作用が無ければ、3 週毎に外来で投与していきます。副作用としては脱毛、食思不振、悪心嘔吐、全身倦怠感、骨髄抑制(好中球減少)、浮腫、爪の変形脱落、末梢神経障害、肝障害、間質性肺炎、肺繊維症などが挙げられます。

当科でも愛知医大泌尿器科と連携し、適応例に対して PS など考えながらドセタキセルの使用を検討中です。ご質問ありましたら、遠慮なくお寄せ下さい。

COPDと「肺年齢」

呼吸器科副部長 加藤 宗博



生活習慣病といえどもっばらメタボリック症候群ですが、呼吸器にも喫煙という生活習慣との関連で生じる生活習慣病の COPD (慢性閉塞性肺疾患) があります。COPD は世界的にみますと、1990 年には死亡原因の第 6 位でしたが、高齢化が進行する 2020 年には、第 3 位になると推測されています。また、わが国では 13 万人を超えるといわれている在宅酸素療法患者の約半数が、COPD を原因とする慢性呼吸不全であり、本疾患への対策は急務と言われております。しかし、COPD の診断に必要な肺機能検査は、結果の説明や理解が難しく、呼吸機能に対する関心が高まらない要因と思われます。そこで、日本呼吸器学会から「肺年齢」という言葉が提唱されました。肺年齢(18~95 歳)は、被験者の肺の機能的な年齢を表しており、男性： $(0.036 \times \text{身長 (cm)} - 1.178 - \text{FEV1 (L)}) / 0.028$ 、女性： $(0.022 \times \text{身長 (cm)} - 0.005 - \text{FEV1 (L)}) / 0.022$ で算出されます。この肺年齢を用いれば、例えば肺機能検査の説明に、「1 秒量がいくら減ったからあなたはどうです」とか「1 秒率が何%だからあなたはどうです」と言うより、「肺年齢が何歳です」と伝えることで理解しやすくなります。また、COPD の第一選択薬である気管支拡張薬の効果は、1 秒量で 100~200ml 程度増えるというのが一般的な報告ですが、これは日本人の肺年齢に換算すると、4~8 歳若返ることになります。治療により、「1 秒量が 100ml 増えました」と言うよりも、「4 歳若返りました」、とお話するほうが、効果をより強く実感でき、治療に対するモチベーションをさらに高める効果が期待できます。COPD は、40 歳以上の 8.4%、約 530 万人が潜在しているといわれ、その 10%しか疾患として診断されていないのが現状です。40 歳以上で喫煙歴を有し、持続する咳や痰、息切れを訴える方につきましては、COPD を疑い、肺機能検査など御依頼頂ければ幸いです。宜しくお願ひ申し上げます。

